

沖縄本土復帰50周年記念事業「沖縄医療保健看護史料アーカイブ」 設置の経緯と目的

第二次世界大戦後、沖縄は本土とは異なる復興の道を歩んできました。アメリカの統治下に長いあいだ置かれた沖縄は、本土と比較して経済的復興が大幅に遅れたとされており、それは現在にも影を落としていると言えるでしょう。

一方、公衆衛生政策や医療政策はアメリカの影響を強く受けた結果、先進的な制度や技術が沖縄に導入され、大学での看護教育も早くから開始されております。

「沖縄医療保健看護史料アーカイブ」設置の構想は、“沖縄の看護行政編集委員会(代表:吉川千恵子氏)”による著書「沖縄の看護行政70年のあしあと」の製作活動がきっかけになっております。研究会の活動の中、学術研究に利用するために県内に散在する医療保健看護の貴重資料を収集・保全する必要性が認識され、貴重資料を所有する元教員などの方々がご高齢となる中、収集・保全は喫緊の課題となっておりました。沖縄県立看護大学附属図書館は重点事業として2018年よりこの貴重資料の収集・保全の取り組みを開始し、アーカイブとして公開する事業に着手いたしました。その後、研究会の方々をはじめ、図書館運営委員会(現在の学術情報委員会)のメンバーや図書館業務専門員の方々のご協力により、アーカイブの設置の準備が進められ、沖縄本土復帰50周年にあたる今年、公開に至りました。貴重資料が研究に広く利用され、社会の発展に少しでも役立てばと願います。

最後に、資料の収集および書誌データの作成にご尽力くださっている「沖縄医療保健看護歴史資料保存公開事業」推進ワーキング・グループの先生がたに心より感謝申し上げるとともに、今後のご健康とご活躍をお祈りしたいと思います。

2022年12月12日

附属図書館長 / 学術情報委員会委員長
佐伯 宣久

○「沖縄医療保健看護歴史資料保存公開事業」推進ワーキング・グループの先生がた
(敬称略、あいうえお順)

石川幸代、上里利恵子、嘉手苺英子、玉城清子、仲村美津枝、永吉ルリ子、
吉川千恵子